

ASEANの焦点はデジタル貿易

東アジアの地域協力・統合を主導してきた ASEAN の次の狙いは。

一般財団法人 国際貿易投資研究所

研究主幹 大木博巳

貿易でみた FTA の成果

FTA 空白地帯と言われていた 1990 年代の東アジアで、ASEAN は 92 年に AFTA (ASEAN 自由貿易地域) 創設に合意し、翌 93 年に共通効果特惠関税 (CEPT) 協定を発効させた。また、アジア通貨・経済危機が発生した 97 年 12 月には、ASEAN 創設 30 周年記念の ASEAN 首脳会議に日本と中国、韓国の首脳を招待し、第 1 回 ASEAN + 3 首脳会議を開催した。東アジアの地域協力・統合の始まりである。

2000 年代に入り、ASEAN は日中韓など周辺国と個別に 5 つの FTA (ASEAN + 1) を締結し、東アジアの地域統合におけるドライビングシートの席を確保した。20 年には 5 つの FTA を束ねる RCEP がインドを除いて合意した。RCEP では、それぞれの FTA の間の齟齬そごが統一されることにより、手続きにかかる時間の大幅な削減、「サービス貿易」での市場アクセスの改善、「投資ルール・規律」「電子商取引」や「競争」「知的財産権」など新分野での経済ルールづくりにコミットしている。

ASEAN は、こうした FTA ネットワークの構築で、どのような経済的利益を得てきたのか。2010 ~ 2020 年の 10 年間における ASEAN の貿易推移から次の 3 つのことが見てとれる。

第 1 に、ASEAN 域内貿易の比率は、2 割強を占めるにすぎず、域内市場統合を推進してきた割には伸びていない。

第 2 は、5 つの FTA を締結している各国との貿易では、中国の一人勝ちであった。特に、ASEAN の輸入に占める対中シェアは、2020 年に 23.7%、2010 年と比べ 10.4% ポイント増えた。一方、対日貿易は輸出が 2.3 ポイント低下し 7.5%、輸入も 4.3 ポイント減の 8% と、地盤沈下が著しい。

第 3 は、FTA 不在の対米輸出が復活した。2010 年代の対米輸出成長率は平均 7.3%、対中国の 6.3% を上回り、ASEAN の輸出に占める米国のシェアは 15.6%、16% の中国とほぼ並んだ。米国の対中追加関税措置によりチャイナ+1 としての ASEAN の魅力が高まったためである。

先発国と後発国で温度差

ASEAN 加盟国の FTA に対する温度差は、貿易成長率の格差で読み取れる。

ASEAN 域外貿易におけるベトナムなど ASEAN 後発国の躍進である。ベトナムは域外貿易でシンガポールを抜いて ASEAN の貿易大国に躍り出た。また、カンボジア、ラオス、ミャンマーも ASEAN 域外輸出で高い伸びを見せている。これに対し、シンガポール、タイ、マレーシア、フィリピン、インドネシアといった ASEAN 先発国は域外貿易の不振にあえぎ、モノの貿易からサービスの貿易に方向転換しようとしている (図表)。

ASEAN 加盟国間の貿易のパフォーマンスの違いは、RCEP に対する期待値を異なるもの